

スチュワードシップ月間の学びも今日で最後になりました。私たちはこのひと月の間、神様から託されたすべてのもの、それは時間であり、命とからだであり、賜物であり、この世の富ではありますが、それらを神様からの預かりものとして正しく管理することの大切さを学んできました。この最後の週は富の使い方、献金について学びたいと思います。

献金の話になると、教会の中でもなかなか話しづらいということがよくあります。なぜでしょうか。それは、献金が税金のように教会に納めなければならないものであるという感覚が残っているからではないでしょうか。献金はいったい誰のためにするのでしょうか。教会のためでしょうか。それとも牧師のためでしょうか。いいえ、そうではありません。献金は、神様のために、そして自分のためにするものです。今日はそのことをご一緒に考えてみたいと思います。

今日の聖書の箇所、マラキ書3章6節以下は献金の話をするときによく用いられる箇所です。マラキ書3章6～12節をご一緒に読んでみましょう。旧約聖書の1500ページになります。

【まことに、主であるわたしは変わることがない。あなたたちヤコブの子らにも終わりはない。あなたたちは先祖の時代から わたしの掟を離れ、それを守らなかった。

立ち帰れ、わたしに。 そうすれば、わたしもあなたたちに立ち帰ると 万軍の主は言われる。

しかし、あなたたちは言う どのように立ち帰ればよいのか、と。

人は神を偽りうるか。 あなたたちはわたしを偽っているながら どのようにあなたを偽っていますか、と言う。

それは、十分の一の献げ物と 献納物においてである。

あなたたちは、甚だしく呪われる。 あなたたちは民全体で、わたしを偽っている。

十分の一の献げ物をすべて倉に運び わたしに家に食物があるようにせよ。

これによって、わたしを試してみよと 万軍の主は言われる。

必ず、わたしはあなたたちのために 天の窓を開き 祝福を限りなく注ぐであろう。

また、わたしはあなたたちのために 食い荒らすいなごを滅ぼして あなたたちの土地の作物が荒らされず 畑のぶどうが不作とならぬようにすると 万軍の主は言われる。

諸国の民は皆、あなたたちを幸せな者と呼ぶ。 あなたたちが喜びの国となるからだ と万軍の主は言われる。】

今日の聖書の箇所の中でも、特に有名な箇所が10節です。この箇所は、神様が「わたしを試してみよ」と言われたとても珍しい箇所です。これは神様からの命令の形をとっています。ですから、今日の聖書の箇所の小見出しは「悔い改めの勧告」と付けられています。ここでも「勧告」という表現が使われているわけですが、しかし、この箇所は本当に神様からの命令であり、勧告なのでしょう。

こんな話があります。アメリカのフロリダ州に住んでいたある人が、自分が献金した金を返せと、教会を訴えたそうです。その人は法廷でこう訴えました。「私は自分の貯金からお金を引き出して教会に渡しました。それは、自分の富の十分の一を献げた人には、祝福、恩恵、そして報酬があるといった牧師の約束に応答したからなのです。しかし、私はそのような利益を今まで受けていないのです」。この話は、嘘のような本当の話です。

この話のいったいどこがおかしいのでしょうか。それは、神様の命令を守りさえすれば、それに応じた報酬がもらえるというように、神様に従うことが報酬を得るための条件となっていることです。報酬を目的として神様を試みることは、神様に従うのではなく、報酬のために神様を利用することです。こんなわかりやすい過ちなら誰でも分かるのですが、しかし実際に自分が献げる話になりますと、ああこの献金があったらもっとおいしい物が食べられるのになあ、などという気持ちになったりしたことはないでしょうか。

今日の聖書の箇所をよく読んでみますと、7節にはこのように記されています。【あなたたちは先祖の時代から、わたしの掟を離れ、それを守らなかった。立ち帰れ、わたしに。そうすれば、わたしもあなたたちに立ち帰ると、万軍の主は言われる。しかし、あなたたちは言う、どのようにして立ち帰ればよいのか、と。】そして8節以下に十分の一の献げ物の話が出てくるのです。そうしますと、今日の聖書の箇所は、どうしたら主に立ち帰ることができるのかということを表した箇所、神様への立ち帰りの話ということになります。立ち帰りへの招き。神様に立ち帰るように招かれている。立ち帰りは神様の方へと向き直す方向転換を意味していますから、私たちは神様の前に向き直るように、すなわち神様に悔い改めるようにと招かれているのです。ですから今日の聖書の箇所は、新共同訳聖書の小見出しに記されているように「悔い改めへの勧告」ではなく、むしろ「悔い改めへの招き」の方がふさわしいと思います。このように神様に立ち帰ることを具体的に示したのが、十分の一の献げ物になるわけです。

ここで少し横道にそれます。新共同訳聖書の小見出しの話が出ましたので、小見出しについての豆知識です。新共同訳聖書に付けられている小見出しは、この聖書を訳した人たちが付けたもので、もともとの聖書本文には載っていません。ですから、小見出しは聖書の言葉ではありません。したがって、聖書朗読の際には、小見出しは読まないのが正しい読み方になります。

さて今日の聖書の箇所に戻りますと、神様に従っていくということは神様に立ち帰ることであり、その具体的な形として、十分の一の献げ物をもって神様に立ち帰りなさい、と私たちは招かれていることになります。10節の後半から、主なる神様は、天の窓を開き、祝福を限りなく注ぐと記されています。この限らない祝福のことを口語訳聖書では「あふるる恵み」と訳しています。今日の聖書の箇所は、神様のあふるる恵みへの招きでもあります。しかしこのあふるる恵みとは、先ほどのアメリカ人のように、自分が献げた献金に対してもっと大きな富の見返りがあるというような話ではありません。ではこのあふるる恵みとはいったい何を指しているのでしょうか。

あふるる恵み。それは今日の聖書の箇所の最後の2つの節、11節と12節に記されています。11節には、食い荒らすいなごを滅ぼして、土地の作物が荒らされず、畑のぶどうが不作とならぬようにする、と記されています。作物が守られること、それは同時に作物を育てる働きが守られること、すなわち仕事が守られることであり、そうやって私たちの生活が守られることも意味します。また、自然が守られるということは、地球の環境や世界のあらゆる動植物、神の被造物が守られることをも含んでいます。十分の一の献げ物によって招かれるあふるる恵みの1つ目は、私たちの食べ物や仕事、生活が守られ、この世のすべての命と体が守られ、そうやって世界や自然が守られていくことです。私たちは、この世で与えられている富の十分の一を献げることによって、実はこの富の十分の十、私たちに与えられているすべてのものが神様のものであることをもう一度思い起こすことが

できます。食べ物や仕事、生活、命と体、世界や自然、これらすべてが神様によって無条件に与えられたものであることにもう一度立ち帰ることによって、私たちは神御自身に立ち帰ることができるのです。神のものを神のものとする。そうやって、すべてのものが神様のものであることに立ち帰ること。それが十分の一を献げるといことです。

また十分の一を献げるとは、私たちに与えられた富を正しく管理することです。それは同時に、私たちに与えられたすべての物、食べ物や仕事、生活、命と体、世界や自然、これらすべてを正しく管理するという。すなわち、スチュワードシップということ。私たちが暮らしている今の社会は、食べ物や仕事、生活、命と体、世界や自然、これらすべてが正しく守られていない社会です。この世で弱くされている命や体が脅かされている世界。神様はそのような世界を望まれてはいません。人間は、神様からいただいたこれらのものを、神のものではなくあたかも自分のもののように考えて、好き勝手に使ってしまった。神様がくださった食べ物や仕事、生活、命と体、世界や自然が正しく守られるために、それらが正しく管理されるために、私たちはまず自分に与えられている富を正しく管理しなければならない。それが、十分の一を献げるといことなのです。

神様から賜うことができるあふるる恵みの2つ目。12節には「諸国の民は皆、あなたたちを幸せな者と呼ぶ。あなたたちが喜びの国となるからだ」と記されています。世界中の国々から神の民が幸せな者と呼ばれること。神様に属する人々が喜びの国となること。それは福音が世界中に宣べ伝えられていくことです。十分の一の献げ物によって、世界に対する神の宣教の御業に招かれていくこと。世界宣教のあふるる恵みへと招かれていくこと。教会は神様の宣教の働きを担う役割を授かっています。世界中の人々に、あなたたちは私たちと同じように神様の恵みの中にすでに置かれているのですよ、主イエス・キリストはあなたのためにこの世に来てくださり、あなたのために十字架に架かれたのですよと、告げ知らせていく働きを担っています。それは御言葉であったり、祈りに支えられた行動であったり、さまざまな形で現れますが、教会はそのような福音宣教の働きを、神様から託されているのです。そして、その働きを誰もが担うことができます。どのようにしてできるのでしょうか。十分の一の献げ物によって、十分の一の献げ物をするによって、私たちは具体的に教会の福音宣教の業に共にあずかることができます。ご高齢になって自分は何もできないとおっしゃられる方も、祈りと献げ物によって教会の宣教の業と一緒に担うことができます。また私たちの教会の献金は、連盟や連合の働きのためにも用いられます。私たちがここで献金をするによって、関西地方連合の宣教活動のために働くことができるし、また日本全国にある連盟の宣教の働き、さらには連盟の宣教師を通じて世界宣教の働きに参加することができるのです。そうやって私たちは、この場にいながら神の宣教の誇りある業に参加することができる。それが2つ目のあふるる恵みです。

あふるる恵み。神はその恵みを私たちにくださろうと、私たちを招いておられます。神は言われます。「立ち帰れ、わたしに。そうすれば、わたしもあなたたちに立ち帰る」。

「十分の一の献げ物をすべて倉に運び、わたしの家に食物があるようにせよ。これによって、わたしを試してみよ」。

「必ず、わたしはあなたたちのために、天の窓を開き、祝福を限りなく注ぐであろう」。

私たちも、神様が賜うあふるる恵みにあずかるために、十分の一の献げ物をもって神様に従っていかうではありませんか。

お祈りしましょう。